# 奈良市の埋蔵文化財

富雄丸山古墳と弥勒寺所蔵三角縁神獣鏡

奈良市埋蔵文化財調査センター
ARCHAEOLOGICAL RESEARCH CENTER,NARA CITY

# 埋蔵文化財でみる奈良市の年表

| | | 主な遺跡・遺構（できごと） | 主な遺物 |
|---|---|---|---|
| 旧石器時代（後期） | B. C. 40000 | | ナイフ形石器・翼状剥片 |
| 縄文時代 | B. C. 12000 | 杣ノ川イモタ遺跡 | 深鉢 |
| | | 水間遺跡 | 石鏃・石匙など |
| 弥生時代 | B.C.1000 ～300 | ゼニヤクボ遺跡 | 弥生土器 |
| | | 柏木遺跡 | 石鏃・石包丁など |
| 古墳時代 | 250 年頃 | 佐紀古墳群 | 三角縁神獣鏡（弥勒寺蔵） |
| | | 菅原東遺跡 | 石製品・玉類ほか |
| | | ベンショ塚古墳 | 鉄製甲冑・鞍金具 |
| | | 菅原東遺跡埴輪窯跡群 | 円筒埴輪 |
| 飛鳥時代 | | 赤田横穴墓群 | 陶棺 |
| | | 帯解黄金塚古墳 | |
| 奈良時代 | 710 | 平城京跡 | 和同開珎 |
| | 752 | （東大寺大仏開眼） | 唐三彩・イスラム陶器 |
| 平安時代 | 794 | （平安京遷都） | |
| | | 土坑墓［西大寺旧境内］ | 腰刀と轡 |
| | 1181 | （南都焼き討ち） | 輸入陶磁器 |
| 鎌倉時代 | | | 瓦器・土師器皿 |
| 室町時代（戦国時代） | | 埋甕遺構［奈良町遺跡］ | 備前大甕 |
| | 1567 | （東大寺大仏殿再び炎上） | 蛭藻金 |
| 江戸時代 | 1613 | （奈良奉行所を設置） | 柳町刀装具鋳造遺物 |
| | | （国産磁器の流通） | 国産陶磁器 |
| | | （桟瓦葺きの普及） | 両桟瓦 |

# 旧石器～縄文時代

（40000 年前～3000（～2300）年前）

狩猟と採集で食糧を確保し生活していた時代です。旧石器は市内各地で出土しますが、明らかな生活の痕跡はほとんど見つかっていません。縄文時代には、煮炊きや貯蔵の知識による土器の製作・使用がはじまりました。奈良市の東部山間地域では縄文遺跡が多く確認されており、奈良市街地（平城京下層）でもいくつか遺跡が見つかっています。

市内各地出土の旧石器

縄文時代早期深鉢
（杣ノ川イモタ遺跡）

縄文時代中期深鉢
（杣ノ川イモタ遺跡）

杣ノ川イモタ遺跡

# 弥生時代

（3000（～2300）年前～1750 年前）

※弥生時代のはじまる年代は今も議論されています

大陸から水田農耕が伝わり、稲作文化を基盤とする社会が生まれました。中期には金属器も登場し、銅鐸などの祭器もつくられました。墳丘のある周溝墓が現れ、古墳へとつながっていきます。

市内各地出土の弥生時代石器

弥生時代後期の葉脈・籾殻圧痕土器
（東九条町）

弥生時代中期の土器（柏木遺跡）

方形周溝墓（柏木遺跡）

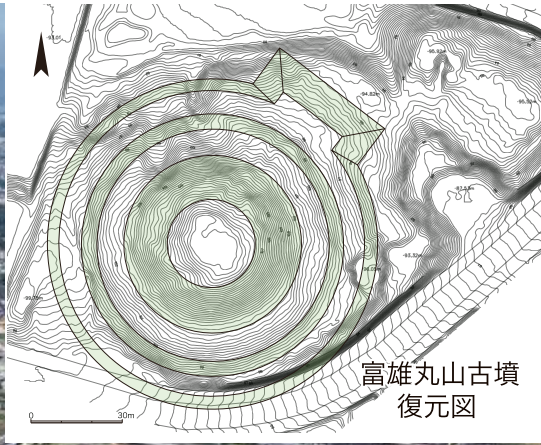
# 古墳～飛鳥時代

（1750 年前～1300 年前）

各地で前方後円墳がつくられるようになり、古墳時代が始まります。大和・河内を中心に巨大な古墳が造られ王権が出現しました。佐紀古墳群は巨大古墳が集まる大型古墳群の一つです。奈良盆地と大阪平野を結ぶ要所には日本最大の円墳である富雄丸山古墳が造られ、王権による国家の支配が行われていたことがうかがえます。とくに、三角縁神獣鏡は王権と地方の支配関係を語る上で重要な遺物とされています。

三角縁神獣鏡（弥勒寺蔵）

佐紀古墳群（東群）




富雄丸山古墳
復元図

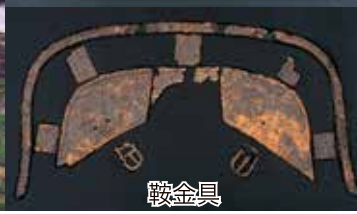
富雄丸山古墳

## ベンショ塚古墳

帯解地域に所在するベンショ塚古墳は、５世紀前半に造られた全長約 70m の前方後円墳です。発掘調査で３つの埋葬施設がみつかり、甲冑や馬具などが出土しました。これらの出土品は市指定文化財です。

ベンショ塚古墳

甲冑


鞍金具

## 大安寺杉山古墳

国史跡大安寺旧境内に所在する杉山古墳は、５世紀中頃に造られた全長 154m の前方後円墳です。古墳をめぐる周濠から多彩な埴輪が出土し、豪族居館を模したと考えられる家形埴輪は、市指定文化財です。

家形埴輪

円筒埴輪

# 菅原東遺跡

菅原東遺跡は、４世紀後半の宝来山古墳（垂仁陵）築造に伴い営まれた集落遺跡です。首長居館を中心に土器・石製品・埴輪などが出土しています。また、６世紀の埴輪窯と集落もみつかっており、埴輪は大和北部一帯の古墳に運ばれていました。付近の丘陵には陶棺を埋葬する横穴墓が多くあり、菅原東遺跡で埴輪を作った土師氏がそこに眠っていると考えられています。

石製品

方形区画溝と首長居館（菅原東遺跡）

菅原東遺跡埴輪窯跡群

埴輪窯出土の円筒埴輪

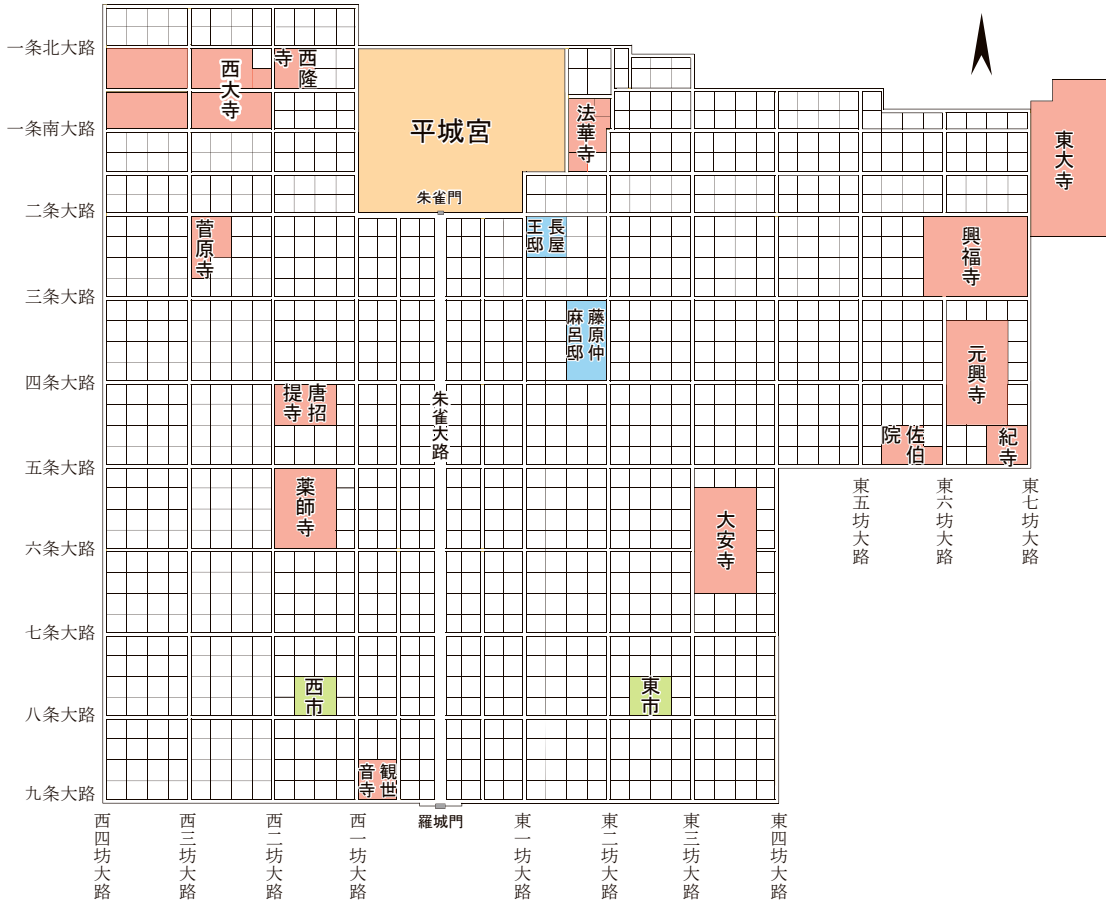
赤田横穴墓群

陶棺

# 奈良時代

（710 年～794 年）

唐の長安城をモデルとした都、平城京がつくられます。その大半が奈良市街地に広がっていました。当時の最新文化や各地の文物がここに集まりました。



整備された朱雀門と朱雀大路

# 平城京の暮らし

平城京には、奈良時代の貴族たちが暮らしていました。日常生活に必要な煮炊具や食器が多く出土します。これらの器は土師器や須恵器のほかに木製のものもあります。

また、京内の市場である東・西市では多くの商品が全国から集められ、この頃発達した貨幣を用いた現代にも通ずる経済社会が成立します。

ものさし

おもり（市指定文化財）

銭貨

帯金具

扇

靴・下駄

土師器・須恵器の食器

木製容器・箸

# 平城京の寺院

平城京には、いくつかの寺院がありました。東大寺や薬師寺などは知られた寺院ですが、奈良時代に最も格式の高かったのは大安寺です。現在は当時の建物はひとつも残っていませんが、地下には筆頭官寺として栄えた当時の姿が残されています。多くの瓦類のほか、三彩や風鐸なども出土しています。

また、西大寺旧境内からはイスラム陶器が出土しました。シルクロードで奈良の都と西洋世界が繋がっていたことを示す貴重な資料です。

唐三彩
（大安寺）

風鐸（大安寺）

大安寺西塔跡

イスラム陶器
（西大寺）

鬼瓦
（大安寺）

垂木先瓦（大安寺）

軒瓦
（大安寺）

# 平安～戦国時代

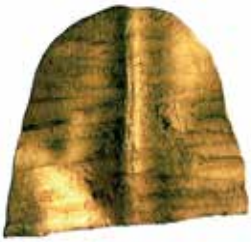
（794 年～1603 年）

都が平安京へ遷りますが、東大寺などの主要寺院はそのまま残されました。やがて興福寺が強大な勢力をもつようになり、実質的に大和を支配していきます。これらの寺社の周辺に門前郷が発達し、南都として栄えました。

腰刀と轡（くつわ）

輸入磁器

土坑墓（西大寺旧境内）



蛭藻金（ひるもきん）

瓦器

備前大甕

# 江戸時代

（1603 年～1868 年）

奈良は幕府が直接支配する直轄領となり、奈良奉行所が置かれました。門前郷は奈良町として発展し、現在につながる町割りがつくられました。17 世紀に桟瓦が発明され、町屋に瓦葺き屋根が普及していきました。奈良町は墨作りや刀作りなど様々な手工業を産業基盤とし、都市として発展しました。

肥前産磁器（大皿）

両桟瓦

国産陶磁器

刀装具の鋳型（柳町）

奈良町遺跡（今小路町）

# 遺　跡　を　掘　る

## 発掘調査

遺跡の発掘調査は、昔の柱穴や井戸などの遺構が見つかる深さまで表土を除去することから始めます。そして、丁寧に土の違いを観察しながら遺構を見つけ、その中を掘っていきます。遺構の掘削が一区切りついたところで、写真撮影や実測図化を行い、遺跡の記録を作成します。

掘削風景

写真撮影

実測図の作成

## 出土品の整理

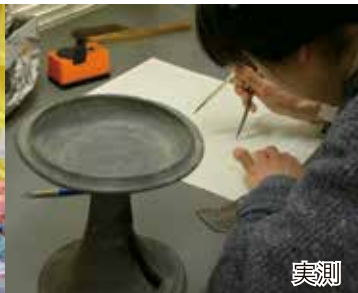
出土遺物は、センターへ持ち帰ってきれいに洗浄します。出土場所の記録を遺物に記したあと、それを分類し復元していきます。復原できた遺物は、写真撮影や図化を行って記録します。

出土遺物の内容を合わせて発掘調査の記録を作成し、広く公開することで埋蔵文化財の活用が可能となります。また、市民考古サポーターと協働した活用事業も行っています。

洗浄

接合

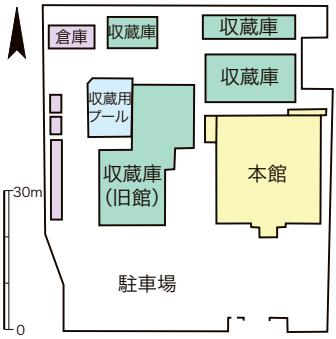
復原


実測

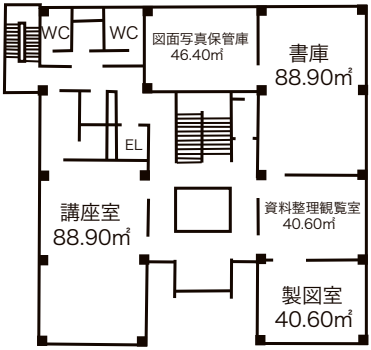
# 奈良市埋蔵文化財調査センター

奈良市には、古代日本の都であった平城京をはじめ、我が国の歴史と文化を物語る貴重な埋蔵文化財が多く残されています。

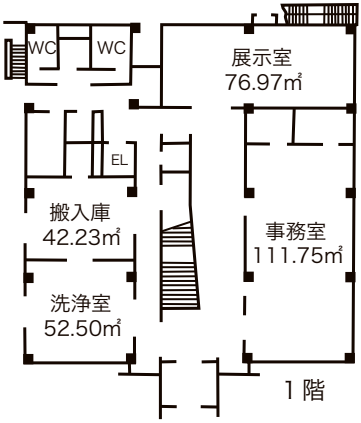
これらの埋蔵文化財を市民共有の文化的財産として適切に保護し、後世に引き継ぐことは、現代に生きる私たちの責務であるとの考えから、本市における埋蔵文化財の発掘調査、出土品等の整理・保存、研究を行い、活用を図る拠点施設として、昭和 58 年 9 月 1 日に奈良市埋蔵文化財調査センターを設置しました。



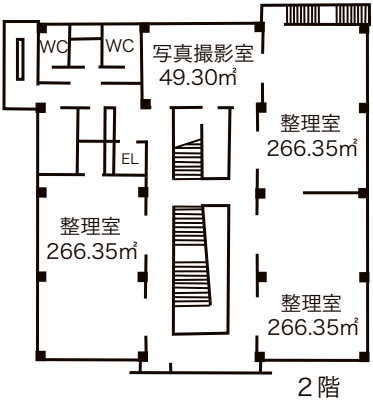
敷地全体図



3 階



1 階



2 階

本館概要

全景

1階ロビー

展示室

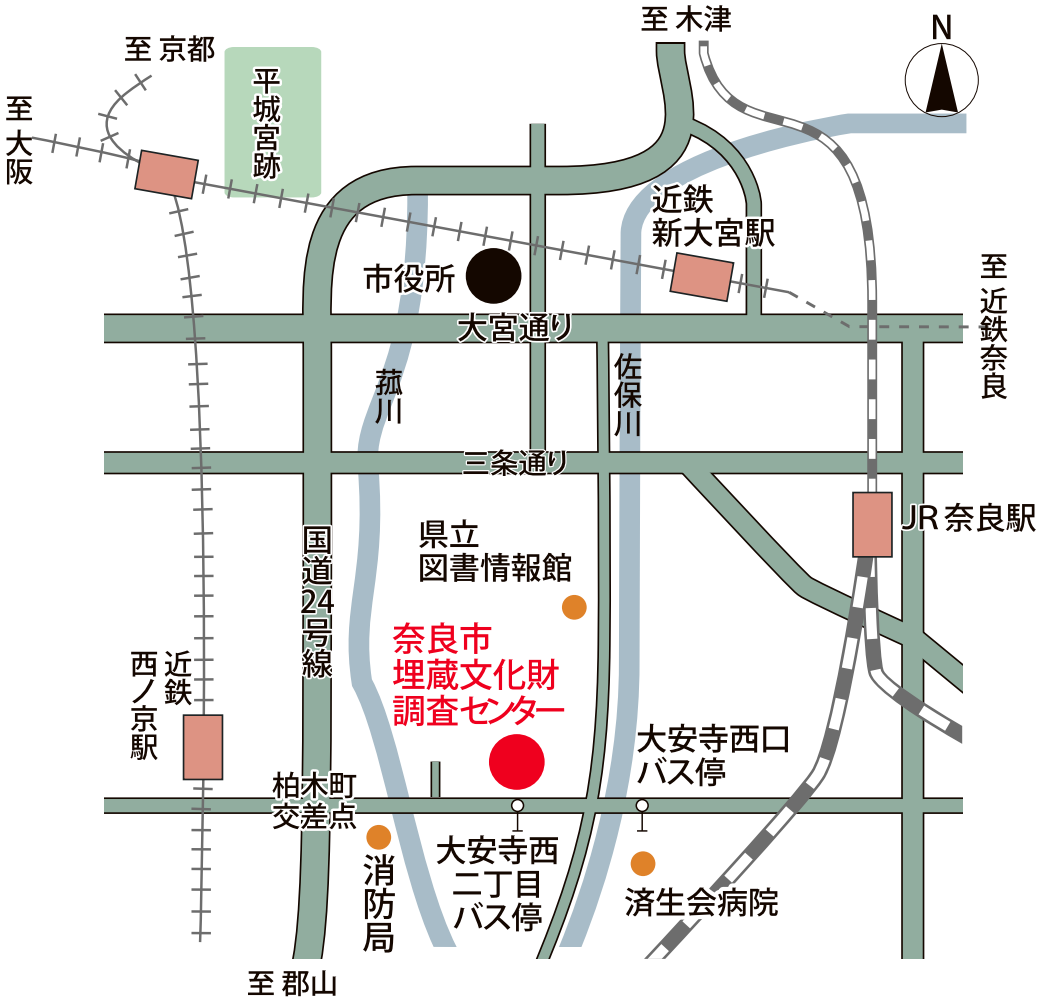
洗浄室

整理室

写真撮影室

書庫

講座室




●国道 24 号線柏木町交差点を東へ 300m

●近鉄奈良駅、JR 奈良駅、新大宮駅から奈良交通バス「恋の窪町」行き乗車
「大安寺西二丁目」停留所下車すぐ


# 奈良市埋蔵文化財調査センター

〒630-8135

奈良市大安寺西二丁目 281 番

TEL(0742)33-1821　FAX(0742)33-1822

Email:maizoubunka@city.nara.lg.jp